



次世代向け教育プログラム

「地震火山地質子どもサマースクール」の活動内容とその意義

普及行事委員会

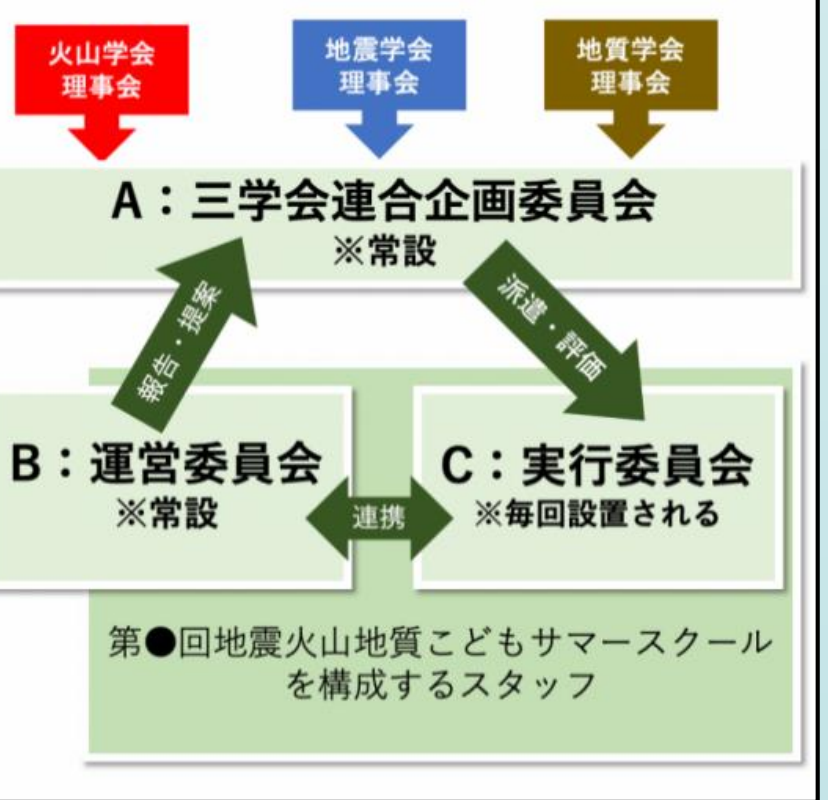


文責：山田

地震火山地質子どもサマースクールとは？

26年間、地震・火山・地質の3学会が全国で実施してきた、異色の子ども科学ワークショップ

- 日本地震学会と日本火山学会が中心となり、1999年から毎年夏休みに全国各地で開催してきた行事。
- 災害と自然の恵みを実感できる「ジオパーク」の運動が国内でスタートしたことを受け、2011年からは日本地質学会も加わり実施。
- 組織は、3学会の理事会と直結する「地震火山地質子どもサマースクール連合企画委員会」と、参加するコアスタッフによる「運営委員会」、開催地の地元組織などで作る「実行委員会」で構成。3学会の幹事学会は日本地震学会である。



開催意義

開催当初の理念と参加者の考える意義

★理念は？：ここからはじまった

サマースクールの根本理念(桑原,1999)

- 1) 研究最前線の専門家が子どもの視点にまで下り、地震・火山現象のしくみ・本質を直接語る
- 2) 災害だけでなく、災害と不可分の関係にある自然の恵みを伝える

★学术界における意義を調査：アンケートを実施(中川・柴田,2022)

実施方法：Googleフォームを対象者にメールで案内。(5月4日～16日)
 対象者：参加時か現時点で職業研究者である89人(大学64、国研・自治体研15、博物館6、民間研4)(故人3人を除く)
 回答者：77人(回答率86.5%)

これまでの子どもの参加者数(延べ)：808名

これまでの開催地地図

2025年は長野県木曾町周辺で開催予定

第24回 地震火山地質子どもサマースクール in 御嶽山

参加動機 感想

参加のきっかけ

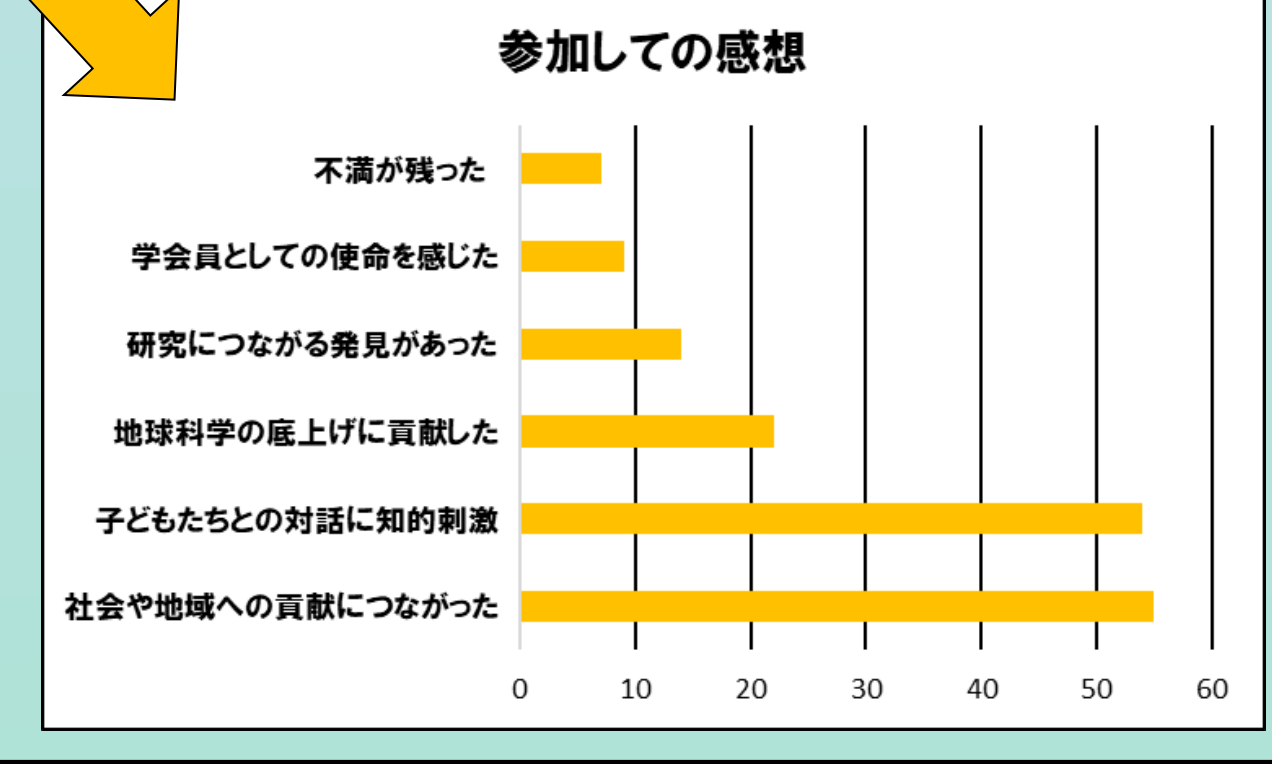
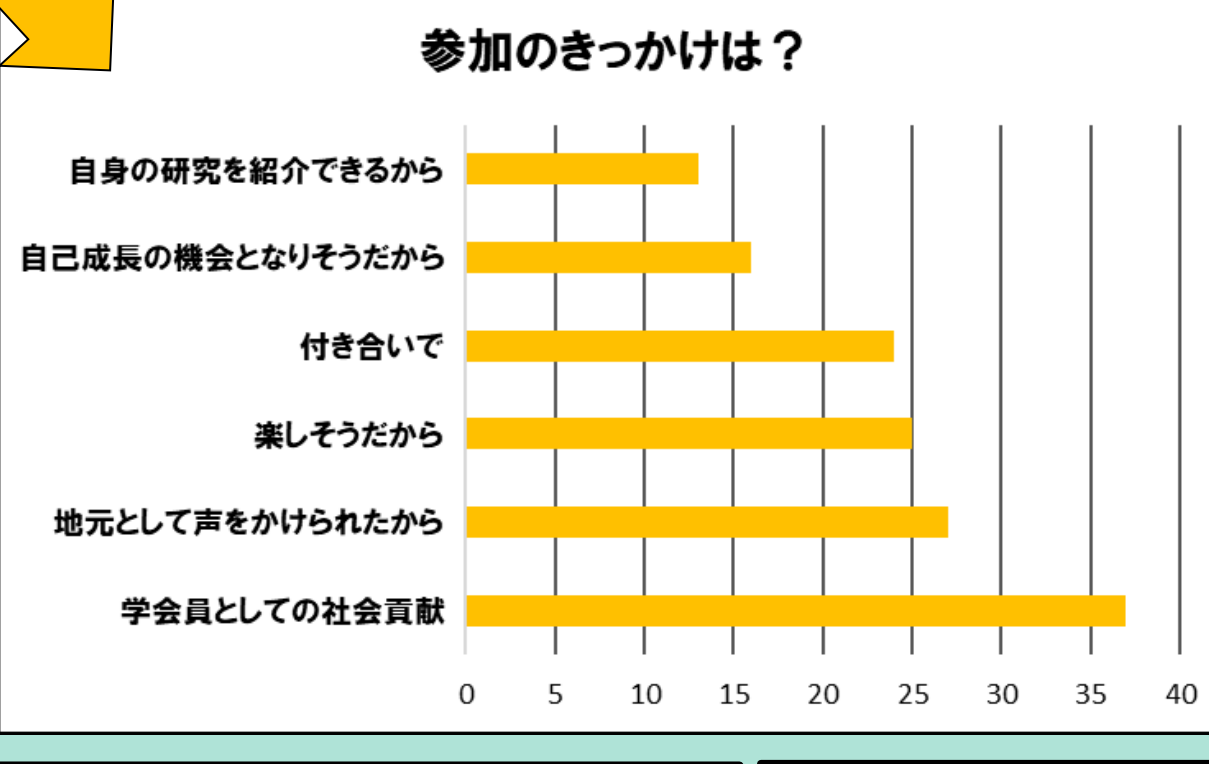
- ・学会員としての社会貢献
- ・地元として声をかけられたから
- ・楽しそうだから
- ・自己成長の機会となりそうだから
- ・自身の研究を紹介できるから(複数回答可、2名以上を参照)

参加しての感想

- ・社会や地域への貢献につながった
- ・子どもたちとの対話に知的刺激
- ・地球科学の底上げに貢献した
- ・研究につながる発見があった
- ・学会員としての使命を感じた
- ・不満が残った(複数回答可、2名以上を参照)

改善が必要な点(内容ごとに整理)

- ・成果の共有、見える化が不足
- ・スタッフの問題
- ・詰め込みすぎ
- ・日程
- ・回答を誘導している
- ・自分たちとは違う、学会に場所貸しただけ



これまでの開催地およびテーマ一覧

日程	プログラム	開催地
1999年8月20-21日	第1回「丹那断層のひみつ」	静岡県南町など
2000年8月26-27日	第2回「有珠山ウォッチング」	北海道札幌市、虻田町など
2001年7月20-22日	第3回「2001地震火山世界子どもサミット」	東京都・大島町、三原山など
2003年8月2-3日	第4回「活火山富士のひみつ」	静岡県富士市、富士山など
2004年8月7-8日	第5回「Mt. Rokkoのナゾ」	神戸市、六甲山など
2005年8月19-20日	第6回「霧島火山のふしぎ」	宮崎県都城市、霧島など
2006年8月12-13日	第7回「湘南ひつつかプレートサイド物語」	神奈川県平塚市、松田町など
2007年8月4-5日	第8回「箱根ひみつたんけんクラブ」	神奈川県箱根町、小田原市
2008年8月23-24日	第9回「都(みやこ)をつくった盆地のなぞ」	京都市
2009年8月8-9日	第10回「火山が作った維新のまち・萩の景色のひみつ」	山口県萩市
2009年11月28-29日	— 地震火山子どもフォーラム	東京都
2010年8月7-8日	第11回「釜ヶ崎公園を610倍楽しむ方法」	高知県室戸市
2011年8月6-7日	第12回「磐梯山のお宝さがし」	福島県会津・磐梯山
2012年8月18-19日	第13回「東と西に引き裂かれた大地のナゾ」	新潟県糸魚川市
2013年8月3-4日	第14回「南から来た大地のものがたり」	静岡県伊豆半島
2014年8月2-3日	第15回「島原半島に隠された九州のヒミツ」	長崎県島原半島
2015年8月2-3日	第16回「まぐれあがった大地と中央構造線のナゾ」	長野県伊豆市など
2016年8月20-21日	第17回「南紀熊野の海と山のヒミツ」	和歌山県串本町など
2017年8月9-10日	第18回「熊本地震で見つけた大地のヒミツ」	熊本県益城町
2018年8月7日	第19回「火山島 伊豆大島のヒミツ」	東京都・大島町、三原山など
2019年8月10-11日	第20回「丹後半島のヒミツ」	京都府宮津市、京丹後市
2022年8月17-18日	第21回「浅間のいたづら、鬼のヒミツ」	群馬県桐生市・長野原町
2023年8月17-18日	第22回「湘南の海の恵みと自身のヒミツ」	神奈川県平塚市など
2024年8月7-8日	第23回「妖怪と探る、吉野川のヒミツ」	徳島県三好市

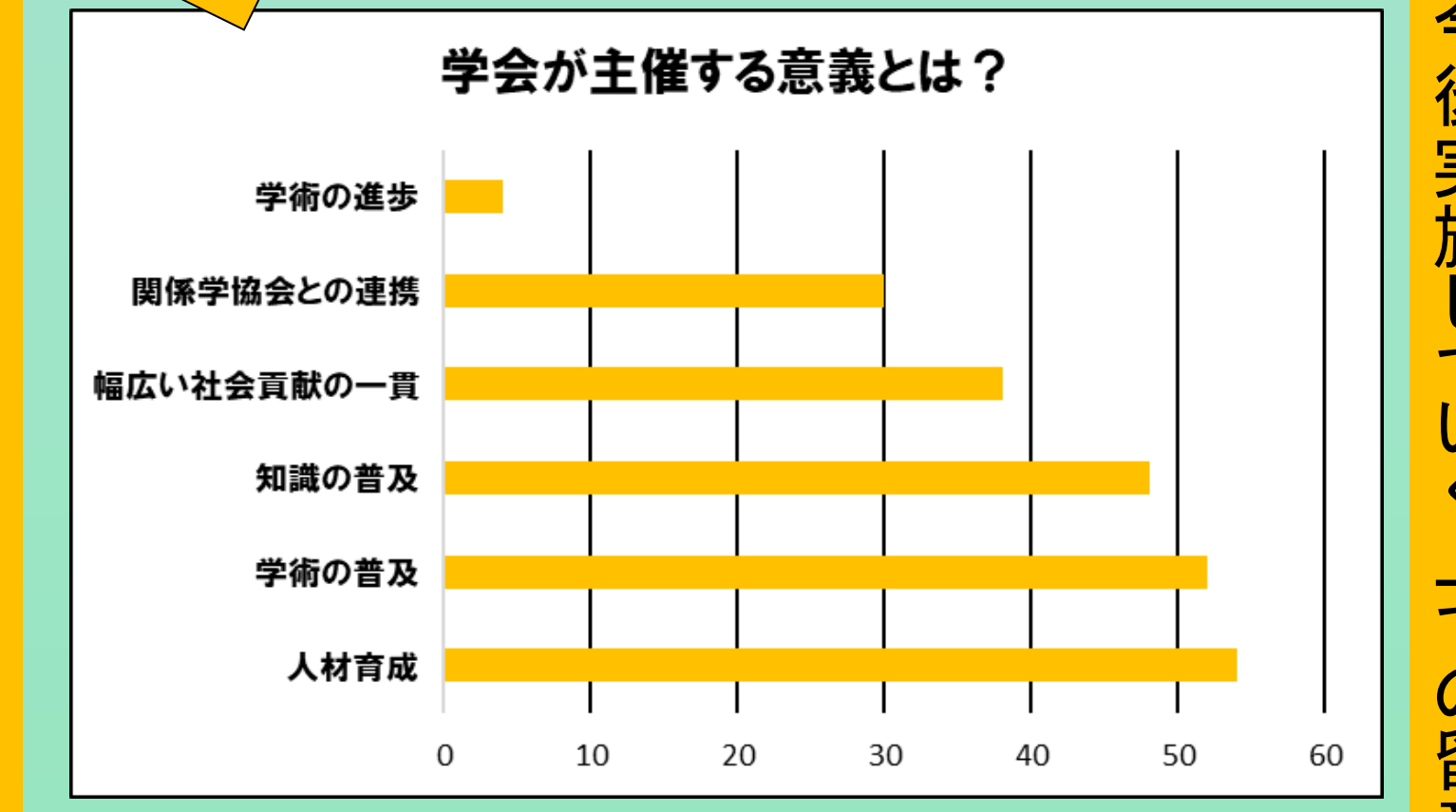
外部資金実績
 土屋生涯福祉基金(2000年有珠)、静岡県(2003年講師料負担)、阪神・淡路大震災10周年記念事業、防災教育チャレンジプラン実践事業(2004)、子どもゆめ基金(2007-08、10-16)、益城町(2017)、大島町(2018)、きょうと地域創生市民会議(2019)、公益財団法人セコム科学技術振興財団(2022)、ノエビアグリーン財団(2023-24)

学会が主催する意義とは

- ・人材育成
- ・学術の普及
- ・知識の普及
- ・幅広い社会貢献の一貫
- ・関係学協会との連携
- ・学術の進歩

学会が主催する意義とは(具体的に)

- ・地球科学は特に教科書の内容が大きく書き換わることが多く、学術団体の専門家の参加は重要。
- ・机上のアウトリーチではなく、若手の地球科学者が一般の方や子どもたちとわかり視野を広く持つことが大切だと思う。その機会になるから。
- ・サマスクの参加者が学会員となり運営スタッフとして携わり始めるなど、事業の継続性が形成されつつある。
- ・受講した世代がサポーターになる良い循環が芽生えているが、まだ少数なのが現状。
- ・子供、その親だけでなく、地元自治体職員に対して、生の姿が見せられた。
- ・スタッフの人数を考えると、子供の参加人数がもっと増えると良いと思う。



- 今後、学術団体が参画して実施していく上で、どのようなことに留意していけば良いか(内容ごとに整理)
- ①学会事業としての報連相
 - ②継続すること
 - ③スタッフ育成をもっと意識する
 - ④教育の場としての視点を大切に
 - ⑤もっとすそ野を広げる意識を
 - ⑥将来ビジョンの検討を
 - ⑦もっと地元とともに、身近な場所に
 - ⑧参加者のフォローを
 - ⑨テーマをもっと考えて

今年はどうだったの？ 今年度は8月7日から8日に徳島県三好市で実施

第23回地震火山地質子どもサマースクール 吉野川大会

妖怪と探る吉野川のヒミツ

サマースクールの1番の決まり事
大人は子どもに教えるはいけません。子どもたちが気付くのが大事！

★子どもたちが吉野川のヒミツを2日間で解き明かす

- ①吉野川はどう流れてきた？大地はどうできた？
- ②吉野川で人々はこれまでどう暮らしてきた？上流から下流まで川沿いや暮らしや災害について調べてみよう
- ③a吉野川の百年先、千年先の未来を予想してみよう。私たちがここで楽しく暮らす方法を提案！
- ③b吉野川の大地を思いっきり楽しむ3日間とは？

講師

実行委員長	長谷川修一	香川大学
講師	西山賢一	徳島大学
講師	山崎慎太郎	京都大学
講師	中尾賢一	徳島県立博物館
講師	馬場俊孝	徳島大学
講師	道家涼介	弘前大学
講師	横山光	北翔大学

★見て、聞いて、調べて、そして考える

- 三好市のゆかりある名前がついた4つの班に分かれてヒミツを解き明かす！

フィールド

大歩危峡 遊覧船から見た景色は？

山城町川口 どんな石がある？5種類あつめよう

池田湖水際公園 陸と空からの景色をみるよ

箸蔵近隣公園 石は？崖は？

ウマバスケール コテージ周辺 ぐらしの工夫を探すよ

池田総合体育館 「高いね。空が近い」

夜のおはなし ドローンで撮った映像をみよう 気象庁って？地震って？最新の研究は？

三好のぐらし 地すべりと防災 能登半島地震のおはなし

「坂が多いから体力がつくね」

「津波がわかる？」

「避難所ですることって？」

「[M0.9 それでも地震？]」

「地震の先生がしている防災対策は？」

実験



活断層の上の大地はどうなる？



★発表

まずはみんなで作戦会議！

「三好市が山ばかりだと思っていたけれど、その山がとてもしずしいんだ」

「吉野川が池田湖で90度曲がっているのは、断層があり、地震が起きて、隆起したから」

「地形を活かして、生活している」

いざ、発表本番！

「洪水や地震などの自然(災害)と共存するには、ハードとソフトの対策で減災を」

「藍の葉は川が氾濫し、土地が新しくなるから育つ」

講師の先生方も本気モード！

「子どもたちの発表を聞いて質疑、講評をします」

「そんな視点があったのか！？」と驚かされることもありました。

子どもたちの発表への講評

三好市の自然や文化には、災害を乗り越えてきた人々の知恵があったことを学び、発表したことが素晴らしい。これからも自然との共存について考えていってほしい。

石から吉野川の成り立ちのヒントを得て、断層や地震が関わってきたと発見し、発表の仕方も工夫され、とても楽しかった。将来は地学学者になってほしい。

★アンケート結果一部抜粋

「学校では学べないことを学べて楽しかった」「四国の特殊な地震が興味深かった」「学校には地学の話ができる友達がいなくて、ここに来ると好きな人がいて、友達になれた」「より地元のよさがわかった」

持続可能なサマースクールの実施にむけて

- ①報連相・宣伝
 - ・説明の場を大事にする。
 - ・活動に理解を示していただけるよう、宣伝方法を模索していく。
- ②後継者問題
 - ・学術側の中心メンバーの年齢層は40代後半以上が多くを占める。
 - ・近年学生など若手のお手伝いも増えてきているが、継続性に課題あり。
- ③内容決め、開催地側との調整
 - ・内容を定めるにあたり、開催地側に意向を汲み取り切れないことがある。
 - ・早期に企画、準備をして、調整する機会を最大限設ける。

来年は？ 2025年は木曾御嶽山で実施予定

2025年は長野県木曾町で開催予定である。御嶽山火山マイスターネットワークの皆さんと御嶽山の成り立ちに着目し、プログラムを準備中です。